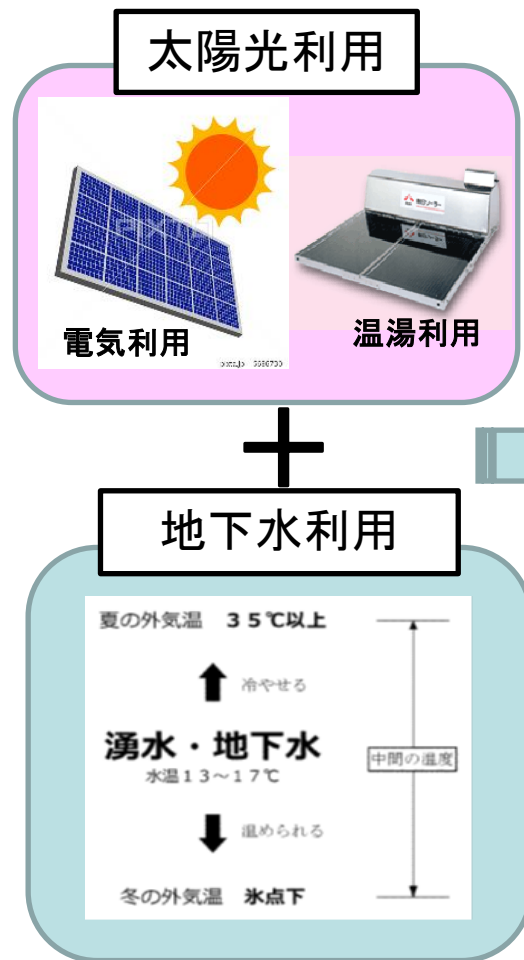


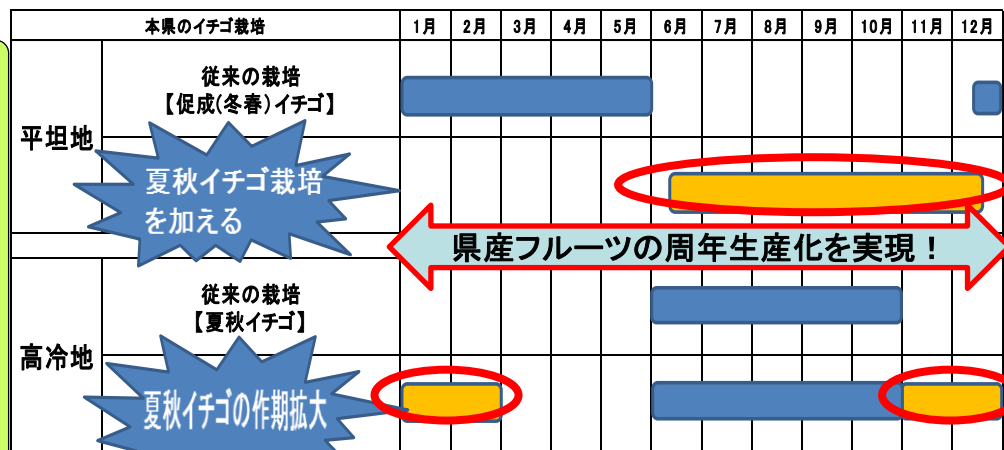
再生可能エネルギーを活用した夏秋イチゴの収穫期拡大技術の開発（H29～31）

研究機関：総合農業技術センター

再生可能エネルギーの活用



夏秋イチゴの作期拡大を目指す



Point①: 夏秋イチゴを地下水利用のクラウン冷却やミスト散水などにより6月～12月にも生産。

→ 促成(冬春)イチゴに加える新たな収入源に！

Point②: 太陽光利用の温湯によるクラウン加温や水封マルチなどにより11月～翌2月まで収穫期を拡大。

→ 通常の促成イチゴ品種を初冬出荷するためには、低温短日処理をしなければならないが、夏秋イチゴ品種であれば、理論上その必要が無く、労力やコストが省けるはず！

→ Point③: 山梨オリジナル品種なら確実に売れる！！

Point④: 晩秋～冬期の日照不足解消のため太陽光充電機による補光や、長期に渡り収穫するため「成り疲れ」対策にソーラー自動灌水システムによる自動施肥技術などで対応。

→ 普及のために長期間安定的に収穫出来る技術もプラス！

期待される効果

- 年間を通して観光客等へ提供できる県産フルーツの一品目となる。
- 経営体の体質強化が図られ、既存産地の活性化と新規産地の育成が推進される。
- 再生可能エネルギー等の農村地域が有する資源を有効活用できる。

安定生産技術にも
再生可能エネルギー
を活用！